

令和7年度 学校自己評価

※ 評価基準 4点（よくできた） 3点（できた） 2点（あまりできなかった） 1点（できなかった）

回答率 92.4(74.2)% (61/66)

No.	分掌	評価達成目標	成果指標・取り組み内容	年度	4	3	2	1	評価平均	来年度に向けての改善の方策
1	総務管理	・緊急時にすばやく対応や連携ができたり、一人一人が危機感をもった対応ができたりするよう防災訓練の充実を図る。	・様々な災害等に対応できるよう、マニュアルを見直す。 ・年3回、様々な災害に応じた防災避難訓練を行う。 ・事前事後学習を含めた防災学習を推進する。	R6	62.8%	30.2%	4.7%	2.3%	3.5	・見直しをしたマニュアルを活用し様々な災害に対応できるように周知する。 ・年3回の防災避難訓練がマンネリ化しないよういろいろなパターンや外部の専門家を招聘し、防災避難訓練を行う。 ・災害時に自らの命を守ることができるよう、事前事後学習を含めた防災学習の充実を図る。
				R7	51.0%	49.0%	0.0%	0.0%	3.5	
2	教務情報	・「実態・段階・課題等」の記入を全教員が取り組み、個別指導計画の質を向上させる。 ・生成AIやクラウド活用の研修を強化し、教育現場での実践力を高める。	・「実態・段階・課題等」の記入を必須とし、記入状況を教務部が定期的に確認する。 ・各クラスで個別指導計画の読み合わせやAIによるチェックを実施し、記入内容の質を高める。 ・生成AIやクラウドサービスの活用に関する情報を配信研修を実施する。	R6	55.8%	41.9%	2.3%	0.0%	3.5	・来年度は一人一人の役割分担をさらに明確化し、成果を現場に還元する取組を推進する。 ・AIの教育現場での利活用スキルを高めることで、児童生徒の実態把握の質を向上させ、教員の負担軽減を図りながら、より適切な個別指導計画・個別の教育支援計画の作成につなげる。
				R7	36.7%	55.1%	8.2%	0.0%	3.3	
3	生徒指導	・児童生徒の主体的活動を充実させる。 ・スクールバス降車訓練や不審者対応訓練のマニュアルを精査、検討し学校全体の安全意識の向上を図る。 ・いじめや児童生徒の行動上の問題に対し、職員間で密に情報共有を行い、組織的に対応にあたる。	・定期的に代議委員会や全校朝会を実施する。 ・年3回のスクールバス降車訓練や不審者対応訓練を実施し、各種マニュアルの検討と改善を行う。 ・年3回のいじめアンケートを実施し、情報共有を行う。いじめ対応マニュアルの伝達講習等を行い、職員の意識向上を図る。	R6	60.5%	37.2%	2.3%	0.0%	3.6	・引き続き、代議委員会や全校朝会を実施し、児童生徒の参画意識を高める。 ・訓練後に振り返りシートを作成し、課題を次回計画へ反映する。 ・いじめ事案や問題行動の共有様式を周知徹底し、迅速な組織対応体制を強化する。
				R7	35.3%	62.7%	2.0%	0.0%	3.3	
4	進路指導	・卒業後の生活を見据えたキャリア教育・就労支援の更なる充実を図る。	・授業や校内実習、職場・施設実習、見学会、各種検定などの取組を通して、児童・生徒一人一人の生活に必要な力や働く力を育てる。 ・随時、進路ガイダンスや事業所見学会などの機会を設定し実施する。	R6	47.7%	45.5%	4.5%	2.3%	3.4	・生徒の実態を把握した上で、将来を見据えて校内、校外での実習を計画し、生活に必要な力や働き続ける意欲を育てる。 ・清掃体験や技能検定に向けた授業をとおして、職種の体験の幅を広げる。 ・事業所見学会を計画し、随時実施する。
				R7	41.7%	56.3%	0.0%	2.1%	3.4	
5	保健安全	児童生徒の健康な心と身体づくりを推進する。	・教職員を対象に食育や摂食指導に関する啓発活動を実施し、児童生徒の発達段階に応じた食育に取り組む。 ・教職員を対象に性教育に関する研修を計画、実施し、児童生徒の発達段階に応じた性教育に取り組む。 ・本校医ケアにおける取り組みを校内教職員で共有し、理解と連携を促す。	R6	50.0%	43.2%	6.8%	0.0%	3.4	・教職員を対象に食育や摂食指導に関する啓発活動を実施し、地域や栄養教諭と連携を図りながら児童生徒の発達段階に応じた食育に取り組む。 ・教職員を対象に性教育に関する研修を計画、実施し、児童生徒の発達段階に応じた性教育に取り組む、成果を次年度に引き継げるよう報告書の改善を行う。 ・引き続き本校医ケアにおける取り組みを校内教職員で共有し、理解と連携を促す。
				R7	37.5%	60.4%	0.0%	2.1%	3.3	
6	自活支援	児童生徒の実態や目標に応じた自立活動の授業改善を図る。	・発達検査やチェックリスト等の結果を活用し、児童・生徒の実態把握に生かす。	R6	50.0%	45.5%	4.5%	0.0%	3.5	・今年度引き続き、発達検査等の結果を、自立活動のグループ分けに活用する。 ・自立活動の授業の指導案を、職員で共有できるようにする。 ・発達検査等の結果と自立活動チェックリストの結果を活用し、自立活動指導計画を作成する。
				R7	44.7%	53.2%	2.1%	0.0%	3.4	

No.	分掌	評価達成目標	成果指標・取り組み内容	年度	4	3	2	1	評価平均	来年度に向けての改善の方策
7	小学部	実態把握を通して児童の特性を十分理解し、人権を大切にするとともに、一人ひとりに応じた支援方法を学部・学年・クラスで共通理解して教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学部・学年・クラスで児童の発達年齢や生活年齢、状況等を総合的に考慮しながら、個に応じた適切な関わり方について検討し実践する。また、必要に応じてケース会議や専門家への相談の機会を設定し活用する。 医療的ケア児童への理解、対応、緊急体制を学部で周知し、教師のローテーションを可能な限り行い、実践を通して関わりを深める。また、ケース会議や研修の機会を設定し共通理解を図る。 一人ひとりに応じた支援方法を工夫し、分かりやすく主体的に取り組める授業や、学習の積み重ねが生活力につながる生活単元学習を計画・実践し、評価・改善する。 	R6	34.5%	62.1%	3.4%	0.0%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画を基に、担任間で目標や手立てを共通理解し、ローテーションや日々の振り返りを通して、支援の統一化や連携を深める。また、ケース会議や専門家への相談機会を積極的に活用し、チームでの取組を推進する。 医療的ケア児童の保護者の思いや、障害認知、学校生活について、学年全体で共通理解する場を定期的に設ける。また日々の体調の変化について、担任、看護師、養護教諭、支援部など複数の視点で対応できる環境・体制作りを行う。 実生活に根差した分かりやすく主体的に取り組める学習内容を継続・精選し、年間計画に基づいて実践・評価・改善を行う。また、学年別段階別など、実態に応じた様々な学習形態を取り入れることで、自己肯定感や達成感が味わえる授業作りを目指す。
				R7	42.3%	53.8%	3.8%	0.0%	3.4	
8	中学部	生徒一人ひとりの特性や特性に応じた支援方法を学部全体で共通理解し、学級及び学年を越えて情報共有しながら連携した教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学級及び学部間で生徒の共通理解を深め、生徒の様子や変化をすぐに学部全体で情報共有したり、支援方法を検討し取り組む体制を継続したりしながら、生徒たちが安心安全に過ごせる環境づくりをする。必要に応じてケース会議を開いて連携できる機関と共通理解を図ったり、専門家へ相談したりして、一人ひとりに応じた支援を継続して実践する。 医療的ケア生徒への理解と対応を共通理解し、校内や校外での緊急体制について学部全体で周知する。 生徒が主体的に取り組める授業づくりを行う。 	R6	43.8%	56.3%	0.0%	0.0%	3.4	<ul style="list-style-type: none"> クラス内で日常的に生徒の様子を共有し、生徒の様子や変化をすぐに学部全体で情報共有する。学年及び学部間で生徒一人ひとりに合った支援方法について共通理解し、学部全体で取り組む。継続的に生徒の様子を見守りながら、必要に応じて支援方法を見直したり、新しい支援の方向性を検討したりして、生徒たちが安心安全に過ごせる環境づくりをする。必要に応じてケース会議を行い、関係機関との連携や専門家への相談を積極的に活用し、支援方法の共通理解を図り、一人ひとりに応じた支援を継続して実践する。 医療的ケア生徒への理解と対応を保護者、担任、看護師、養護教諭と相談し、学部内で共通理解を深め、校内や校外での緊急体制について学部全体で周知する。 生徒が主体的に学びに取り組めるよう、教師間で話し合う場を定期的に設定し、意欲を引き出す授業づくりを進めていく。
				R7	43.3%	50.0%	3.3%	3.3%	3.3	
9	高等部	卒業後の進路を見据え、障害の状況や多様なニーズに応じた指導・支援について、学年を超えて共通理解を図り、協働して教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の社会生活や余暇活動を視野に入れてカリキュラムを作成し、情報を共有して学習活動に取り組む。 生徒の目指す姿や個々の状況、合理的配慮等を踏まえた対応について、学部全体で情報共有し、指導の方向性を協議する。 	R6	41.9%	54.8%	3.2%	0.0%	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 学級や学年、学部全体で、生徒の現状や課題、支援方法、卒業後の姿等を共通理解した上で、授業や学年・学部活動を行う体制を継続する。 進路指導部との連携を密に行い、生徒一人一人の課題や卒業後の生活を見据えた適切な進路指導を継続して行う。
				R7	43.5%	56.5%	0.0%	0.0%	3.4	
10	人権	自分を大切にし、お互いの違いを認め合い、思いやりや助け合いの心を育てる人権教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動や学校生活全体を通して、児童生徒の発達段階に応じた人権学習や、児童生徒の人権に配慮した教育活動に取り組む。 人権に関する教職員向け研修を実施したり、日頃から人権に関する研修会や人権感覚セルフチェックシートの実施、資料などの情報発信を行ったりし、教職員の人権に対する意識を高める。 	R6	34.1%	59.1%	6.8%	0.0%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から様々な人権問題に対して、身近に起こりえることであるという意識をもって、教育活動に取り組む必要がある。人権に関する課題は変化し、多様であるため、引き続き職員研修や情報発信を豊富に行っていくとともに、教職員に対する人権感覚セルフチェックシートの実施を継続していく。
				R7	30.6%	65.3%	4.1%	0.0%	3.3	
11	交流	心のバリアフリー推進事業に基づいた本校での交流及び共同学習を通して、地域や同世代の友だちと関わりを持ち、互いに理解を深め合う。	<ul style="list-style-type: none"> 交流校との打ち合わせを対面などで行い、実施時期や方法、内容や活動場所を工夫して交流を実施する。 事前学習を通して、児童生徒に見通しを持たせる。 	R6	53.3%	46.7%	0.0%	0.0%	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 交流相手との打ち合わせを綿密に行い、児童生徒の実態に応じた内容等を工夫して交流を行う。 予備日を事前に決めておき、延期になった際でも実施できるようにする。
				R7	36.0%	62.0%	0.0%	2.0%	3.3	